

学科名	建築学科
課程	学士課程
授与している学位	学士(建築学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	<p>本学科は、自然環境や歴史・風土と共生する豊かな生活環境を社会に提供していく立場から、地域固有の多様な伝統と文化に根ざした広義の「建築デザイン」を実践する技術者を育成し、世界に誇れる建築文化を確立することをめざしている。「建築デザイン」とは芸術と工学を融合した総合的なデザインを意味する。そこには、地域を構成する「人」「建築」「都市」「自然」が有機的に関連しあいながら、年月とともに調和のとれた生活環境を形成していくための、意匠設計、修復・保存再生、まちづくり等の安全性と持続可能性を担保した多様な活動が含まれる。</p> <p>具体的には次に挙げる学修目標に到達した学生に、以下の学位を授与する。 学士(建築学) 芸術および工学の観点から建築を総合的に探究する基礎的な知識と能力を有する。</p>
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	<p>世界の多様な地域固有の伝統と文化に根した、意匠設計のみならず、建築学の両輪をなす芸術と工学とを融合した広義の建築デザインを学ぶ。</p> <p>学部1～3年次では、建築史、建築計画、都市計画、建築構造、建築環境設備および建築生産といった建築学全般の広範な知識を身につけ、これらの知識を設計演習や設計製図などの実技系科目を通じて、より総合的な建築表現および創造的な建築を生み出す能力を培う。4年次では、卒業論文と卒業計画の両方を履修し、学士課程の学習・研究の成果を評価する。</p>

学修成果1.	「早稲田建築」の伝統に学び、現代社会が建築・都市・環境に求めるものを知る
学修成果2.	地球的な視野と、地域に固有の歴史風土を理解する視点を、共に涵養する
学修成果3.	建築家および建築技術者の職能を理解し、社会に対する専門家としての倫理観を培う
学修成果4.	建築・都市のデザインおよび芸術性に関する幅広い知識を身につける
学修成果5.	進取の精神をもって、先進的な知識を積極的に吸収する力を培う
学修成果6.	関連する諸分野の知識を統合し、創造的な空間の提案をする能力を培う
学修成果7.	異分野の専門家と協働し、問題を実践的に解決する能力を培う
学修成果8.	建築に関する自らのアイディアを広く社会に提案する能力を鍛える

学科名	総合機械工学科
課程	学士課程
授与している学位	学士(工学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	<p>「技術」を人間の設計(デザイン)行為として広くとらえることにより、科学でこれまで扱うことが困難であった「価値観や背景が異なる多様な人間の生活(営み)の場」に調和した共創の技術を目指す新しい学術的・社会的課題の解決に不可欠な基礎知識／専門知識を習得する。その上で、卒業論文において、現代社会が抱える諸問題を個々の人間に則して解決していくための機械の設計原理、ならびにそれらの開発と社会的評価に取り組み、機械工学分野に関わる科学技術の水準の高揚に資する応用力を有する者に卒業資格を与えるものとする。</p> <p>■キーワード</p> <p>DP1:機械工学における専門知識の習得, DP2:機械工学における専門知識を活用する実践力, DP3:モデリング力／解析力の基盤の習得, DP4:論理構成力／表現力の基盤の習得, DP5:構想力／問題解決力の基盤の習得</p>
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	<p>身体的な働きによって獲得される「実践的な知」と頭脳的な働きにより角逐される「科学的な知」を両輪として循環的に働かせる教育カリキュラムとプロジェクト研究を連動させることによって、生活の現場における社会的問題に即応し、それを善い方向に導くことができる構想力と実践力、論理構成力を有する開発エンジニアを育成するための教育を展開する。具体的には、専門知識の蓄積とその活用を図る応用力をはじめ、モデリング力、解析力、プレゼンテーション力を段階的に高めてゆける重層的かつ相互連関的な科目設置を行う。その集大成として、卒業論文において、環境、エネルギー、医療福祉、高齢者介助、コミュニティづくりといった現代社会が抱える諸問題の解決に取り組めるよう、効果的かつ実践的なカリキュラム編成の追求と実体化に努める。</p>

学修成果1.	機械工学の基礎となる各種力学科目から発展的な応用科目まで幅広く用意している。将来なりたい技術者像にあわせて、専門選択科目を選び、必要な知識を獲得する。
学修成果2.	様々な実験実習科目の受講を通じて、基本的な実験装置の使用方を理解する。また、実験または実習で指定された課題に対しての報告を行うことによって、レポートの書き方を身につける。
学修成果3.	機械工学のエンジニアとして必要な製図法を身につける。製図に関する座学だけでなく、演習や検図によって、正しい図面を描く能力を獲得する。
学修成果4.	複合領域科目、外国語科目、数学に関して広く学ぶことで、様々な社会的問題を把握して、対応するための複合的・国際的視点を身につける。
学修成果5.	ゼミナールとエンジニアリングプラクティスを通じて、卒業論文に取り組むための基礎知識と実験的スキルを獲得する。
学修成果6.	取り組むべき社会的問題と関連する研究論文を読んだ上で、解決すべき課題・問題を把握して、その解決に繋がる研究を推進する。その上で、自分が推進した研究を分かりやすくプレゼンテーションする能力を獲得する。

学科名	経営システム工学科
課程	学士課程
授与している学位	学士(工学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	グローバル化の中、一層大規模複雑化している社会技術システムの構造や特性を理解し、数理・情報・システムなどのアプローチ技術を活用してその設計や評価を行うための知識を備え、さらに現実的な問題に関する設計や評価を行うことができる実践的な能力を備えた技術者の育成を目標とする。そのために必要な資質・能力を習得し、卒業論文の審査において、その資質・能力を習得したと判断できる者に対して学士(工学)の学位を授与する。
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	教育目標を達成するため、必要となる共通的な基礎をまず習得させ、次にそれに基づき選択した専門分野の知識や技術を習得させ、さらにそれらを活用した問題解決の能力を育成するというフローとなるように設計を行っている。具体的にはDP1およびDP2は共通的な基礎であり、A、B群の科目ならびにC群の必修科目がそれぞれ対応し、2年次で習得させる。DP3はそれを踏まえた専門分野の知識や技術であり、3、4年次で習得させる。DP4はそれらを活用した問題解決の能力の育成に対応し、3年秋学期から4年にかけてのゼミ活動と4年次での卒業研究で育成する。一方、DP5、DP6はこれらのフローを通じて習得させることを意図し、学部共通のリテラシ科目、外部講師の講義を含んだ科目、ゼミや卒業研究などを通じて達成するように設計されている。

学修成果1.	経営工学に関する基礎・応用技術
学修成果2.	机上で得た知識を応用できる能力
学修成果3.	経営工学に関するより専門的な知識
学修成果4.	問題発見能力、問題解決能力
学修成果5.	経営工学に関する基礎・応用技術を実務に活用する能力
学修成果6.	学修成果1～5を国際社会で生かす能力

学科名	社会環境工学科
課程	学士課程
授与している学位	学士(工学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	社会環境工学は、人間が人間らしく生きるための環境を創造する役割を担っており、社会が抱える課題こそが社会環境工学が向かい合うべきものである。現在の社会が文化的な生活を維持し改善していこうとする中で、解決すべき問題が多岐にわたっていることにより、社会環境工学分野に求められる人材と職能も多様になっている。複雑化する課題を多角的に見つめ解決していく使命を果たすためには、関連する知識を正しく身に付けていることはもちろん、様々な社会的要請に対して、自ら問題点を発見し、最適な方法・答えを提案できる術を身に付けていかななくてはならない。社会環境工学科では、社会環境工学に求められる使命にこたえられる、創造力、総合力、そして国際力を備えた指導的人材を育成するため、社会基盤部門、環境防災部門、および計画・マネジメント部門のそれぞれの専門家が結集し、社会環境工学の基礎教育を講義・実験・演習などの形で提供する。そして、最終学年では、教員の研究指導のもとで卒業研究・計画を行い、その成果を卒業論文としてまとめあげる。各部門において卒業論文の審査を行い、社会環境工学の基礎的な知識と応用力を身につけていると認められた場合に、学士(工学)の学位を授与する。
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	社会環境工学科では、社会基盤整備のための基礎的な技術の継承に加え、新たな社会的要請にこたえるべくカリキュラムを準備している。まず、社会環境工学分野の技術者が持つべき素養の基礎である、基礎的数学能力、自然科学、人文・社会科学、および社会環境工学の根幹をなす基礎理論体系を学ぶ。その後、幅広く社会環境工学全般を学ぶことにより、多角的なものの見方、理論の深い理解ができる能力の育成、また、新たな価値意識を備えていく。これにより、知的総合力を持った技術者として、社会基盤の整備や維持管理、また地球環境との調和に対する技術的側面から貢献するための基礎教育が行われる。さらには、国際力を持った技術者として、社会環境工学による国際貢献を達成すべく、マネジメント能力やプレゼンテーション能力、語学力を養うものとする。

学修成果1.	現象の根源的な構造を解明し理論化する数理能力を有し、複雑な要請や条件を「かたち」や制度にまとめあげる設計や計画能力の基礎を身につける。
学修成果2.	社会のあるべき姿の実現に向けた理論構築の基礎と実践が礎としてあり、さらにそれらを応用できる能力を身につける。
学修成果3.	自ら実験やフィールドワークを計画・遂行し、得られた結果を数理に基づき解析・分析する能力を有し、それを説明できるプレゼンテーション能力を身につける
学修成果4.	主体的に問題を解決する能力と、分析力・思考力・推論力を活かした総合判断力を身に付け、それを多様な人々と協働して世界の様々な問題の解決に当たることができる。

カリキュラムマップ・カリキュラムツリーなど関連情報をWeb上で公開している場合はそのURL	http://www.civil.sci.waseda.ac.jp/curriculum
備考欄	

学科名	環境資源工学科
課程	学士課程
授与している学位	工学

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	地球的視点、技術者倫理、コミュニケーション能力、国際性を身につけ、多様な価値観に基づき、リーダーとして環境と調和した資源開発、様々な地域および地球全体の環境問題の解決に貢献できる人材を輩出する。
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	自然環境と調和した持続可能な地球資源システムを創造できる人材を育成する。自然環境を保全しながら合理的に資源を探索・開発し、有効効果的に資源を循環させるために必要な知識を、地球・物質、資源・開発、素材・循環、人間・環境の複合的な視点から系統的に学習可能とする。

学修成果1.	地球的視点の育成 地球的視点、すなわち、地球の内部・表層・外部（大気）全体を見据えたグローバルスケールで、資源および環境問題を捉える能力を育成する。
学修成果2.	現場・実験（実学）の徹底 フィールドに赴いて主体的に考えながら調査し、様々な物理および化学計測を行い、サンプリングを適切に行うことができる能力を育成する。また、フィールドで採取した岩石・鉱物などの地球化学試料、大気・水・土壌などの環境試料、廃棄物、等の前処理法を含めて、非破壊および破壊の様々な機器分析技術を習得する。
学修成果3.	データ解析能力の涵養 得られたデータを「仮説発見型」と「仮説検証型」の二つの視点から解析する能力を身につける。さらに、資源探索・開発、リサイクル、気候変動など複雑な事象を模擬し、メカニズムの解明や将来挙動予測を適切に行うために必要となる基礎的なプログラミング・数値計算能力を身につける。
学修成果4.	コミュニケーション能力の育成 フィールド調査、教員・スタッフ、学生同士・外部との議論、さらに学会発表などを通じてコミュニケーション能力を涵養し、資源および環境問題におけるリーダーとして活躍する能力を身につける。
学修成果5.	国際性の修得 海外資源の探索・開発、国境を越えた地球規模の環境問題などに対応すべく、海外調査、学会発表、留学生との交流などを通じて、世界で活躍が期待できる人材を育成する。
学修成果6.	研究立案・評価能力の育成 研究の遂行においては、その背景や社会的環境、研究意義を十分に把握し、それに則った研究計画の立案、成果の評価を行なえる能力を身につける。